

- ・ 介護や若い命を育む職に携わる人の話を聞き、生命誕生の神秘や生命の尊厳を学ぶ。
- ・ 幼児、乳児、被介護者とふれあう体験を通し、生命の尊厳や他者へのいたわりの心を育てる。

○ 全体の指導計画

実施学年	活動の名称 ・実施する体験活動の概要	実施日時・期間 (単位時間数)	教育課程上の 位置付け	活動の場所 (指導者)
1年	大島青年の家での自然体験学習 ・ 訓練や活動を通して、自然への畏敬の念と生命を大切にすることを育成する。	5月 10～12日 6時間	総合的な学習の時間	大島青年の家 (青年の家職員)
1年	地域学習(公民館活動) ・ 公民館の学習講座を通して、地域の文化、歴史を学び、地域の方との交流を深める。	6月～10月 10時間	総合的な学習の時間	菊川中学校 及び菊川地域 (地域ボランティア)
1年	地域学習(老人クラブとの交流) ・ 地域の先人に学ぶことを通して、思いやりの心や郷土愛を育てる。	6月～10月 10時間	総合的な学習の時間	菊川中学校 及び菊川地域 (老人クラブ会員)
1年 2年	職場体験学習 ・ 近郊の事業所で、働くことを通して、勤労の尊さ及び自分の生き方を見つめる機会とする。	11月 13・14日 12時間 (2日間)	総合的な学習の時間	周南市協力各事業所 (事業所職員)
3年	福祉体験学習 ・ 福祉施設で、福祉の現状と課題を学習し、共に生きる社会の実現のための心構えをつくる。	11月14日 6時間 (1日間)	総合的な学習の時間	周南市協力各事業所 (事業所職員)
1年	命の大切さを学ぶ講演会 ・ 若い命を育む職に携わる人の話を聞き、生命誕生の神秘や生命の尊厳を学ぶ。	7月11日 2時間	道徳	菊川中学校 (介護施設職員、 保育園職員)
全学年	マナー講習会 ・ あいさつ、言葉遣い等の重要性と基本を学び、実践しようとする態度を育てる。	11月2日 2時間	総合的な学習の時間	菊川中学校 (銀行人事部行員)
全学年	薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室 ・ 警察本部少年課職員の各種啓発用器材を用いた話を聞き、薬物が体や社会に与える恐ろしさを学ぶ。	7月13日 2時間	保健体育	菊川中学校 (警察本部 少年課職員)

全 学 年	ボランティア活動2回 ・ 地域の清掃活動、リサイクル活動を通して、地域住民との積極的な交流を図り、地域に生きる一員としての自覚を促し、地域への感謝の心を育てる。	8月19日 2時間	教育課程外	菊川地域 (保護者、地域住民)
		12月8日 2時間	総合的な学習の時間	
1年	命の大切さを学ぶ活動(幼児) ・ 幼児とふれあう実習を通し、生命の尊厳や他者へのいたわりの心を育てる。	夏季休業中 1日	教育課程外	菊川幼稚園 (菊川幼稚園職員) 菊川保育園 (菊川保育園職員)
	命の大切さを学ぶ活動(介護) ・ 介護施設での実習を通して、生命の尊厳や他者を思いやる気持ちを育てる。	夏季休業中 1日		地域の介護施設 (介護施設職員)

2 活動の実際

(1) 事前指導：(総合的な学習の時間)

○ 地域学習(公民館活動、老人クラブとの交流)

事前に、活動内容(準備物、経費等)を説明し、生徒の希望調査を行い、公民館活動(6)、老人クラブとの交流(4)のグループ分けを行った。担当が、各活動の指導者と、連絡を密にとり、活動が円滑に進むように配慮した。

○ 職場体験学習

年度当初から、協力事業所と連絡を取り、生徒の希望調査結果で、事業所グループを決定した。「事業所への体験学習のお願い」「班长による、事業所での事前打合わせ」「職種に関する調べ活動」に取り組んだ。

(2) 活動の展開



ちぎり絵サークル



フォークダンス



押し花教室



謡い



昔のおもちゃづくり



昔のお菓子づくり



菊川に菊運動



農業体験

命の大切さを学ぶ活動



ニチイケアセンター



菊川保育園

大島青年の家での自然体験学習



(3) 事後指導

事後、活動で感じたこと、身についたことをまとめ、指導者に感想とお礼の内容の手紙を書いた。また、地域学習は、文化祭で展示やステージ発表を行うことで、活動内容を再確認させた。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

菊川公民館長、加見老人クラブ会長、富岡老人クラブ会長、菊川幼稚園園長、菊川保育園園長、ニチイケアセンター菊川施設長、校長、教頭、教務主任、研修主任、生徒指導主任、道徳主任の12名で、支援委員会を構成した。

(2) 配慮事項等

活動を実施するにあたり、各講座・事業所の担当者を決め、校外施設の責任者と打合わせを密にし、施設利用者への配慮事項等を確認するとともに、生徒の安全についても確保できるように確認した。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- 活動後に個人・班の自己評価を行い、体験学習の協力事業所等にもアンケートをお願いした。また、文化祭で展示やステージ発表することで、活動を通しての自分の内面の変容を認識させた。
- 担当する教職員の数に対し、地域学習の講座数や職場体験学習の事業所数が多かった。速やかに適切な指導や対応を行うために、体験活動の内容や種類を見直し、事業所や指導者との連絡をより密にしていきたい。

5 活動の成果と課題

○ 成果

地域学習を通して、地域との関係、自然に対する関心が深まってきた。人間同士の関係が希薄になりつつある現代社会の中で、「自然」「地域」「乳幼児」「高齢者」等との幅広いふれあいを通して、自分が周りの多くの人や自然の中で、かかわりをもって生きていることを意識する意義深い活動であった。

○ 課題

校外での体験活動を、有意義かつ安全に実施するために、綿密な計画と打合わせ及び事前・事後の活動や指導が必要であるが、時間の確保が課題である。また、限られた教育課程の中で、何を感じさせ、何を学びとらせるのかを、中学校3年間を見通した学習全体計画の中に位置づける必要がある。

